

今月の重点活動

■スマート農業 リモコン式草刈機の実演会を開催

9月14日、白鳥町の「前谷棚田を守る会」がリモコン式草刈機の実演会を開催し、地元住民や関係者15名が参加した。

実演会では、「岐阜県スマート農業機械・機器貸出事業」を活用して3種類のリモコン式草刈機を用意し、斜度40度近い畦畔や草丈の高いススキ等の草刈作業の比較を行った。

実演の結果、参加者からリモコン草刈機は中山間地でも十分に利用可能との評価が得られ、「前谷棚田を守る会」では導入を検討することとなった。

中山間地域では、作業の省力化や安全性を目的としてドローンやリモコン草刈機の導入が進んでいるが、農業普及課では現地実証などを通してスマート農業機器の普及を支援していく。



【リモコン草刈機を実演】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■夏秋トマト 「郡上トマトの学校」ぎふ清流GAPに挑戦

新規就農者研修施設である「郡上トマトの学校」では、「ぎふ清流GAP評価制度」への申請を進めている。

同施設は、すでに「岐阜県GAP確認制度」により、GAP取組みの基礎的な部分はできているが、更にレベルを上げるために今回の申請を行うこととなった。

農業普及課では、リスク評価や作業手順等について夏秋トマト栽培向けに記帳様式を作成し、研修生や施設関係者を交えて内容の検討を行った。

今後は、次のステップとなる農場審査に向けた模擬審査などを行いながら、作業性や経営改善に役立てるようGAPの普及に取り組む。



【ぎふ清流GAPの
ロゴマーク】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■切り花 農業DX化実証農場の現地指導を実施

県事業の「農業DX化実証農場」を活用して「ひるがのフラワーサークル」の組合員5戸が、環境モニタリング機器によるスマート農業の実証に取り組んでいる。

9月14日には、これまでのデータをもとに施設園芸コンサルタントを交えて現地指導を実施した。当初は、現地での指導を予定していたが、感染症対策としてタブレット端末を用いてオンラインにより実施することとなった。

はじめに、生産者から栽培概要について説明した後、質疑応答形式で栽培上の様々な課題について意見交換が行われた。指導を受けた生産者からは、「これまで感じていたことの答え合わせになった。」との感想が聞かれた。

農業普及課では、環境モニタリング技術等を通じて栽培上の課題を明確化するとともに、コスト検証を踏まえたスマート農業技術に関する情報提供を継続する。



【オンラインで助言を
受ける生産者】

■夏だいこん スマート農業研究会の現地検討会を開催

「ひるがの高原だいこんスマート農業研究会」では、畑地センサやロボット農機などスマート農業技術を活用した作業の効率化に取り組んでいる。

9月29日には、熟練技術が必要とされる畝立て作業において、自動操舵トラクターの有効性について検証を行った。従来型、直進アシスト機能付き、自動操舵の3通りの方法で畝立て作業を行い、直進性、正確性、作業時間などを調査した。

自動操舵トラクターは、畝立て中のハンドル操作が不要で、直進性、畝間隔が他の機械と比較しても遜色ないことが確認できた。

農業普及課では、今後もスマート農業導入など技術革新を支援し、夏だいこん産地の生産振興に取り組む。



【ハンドルを持たず自動操舵トラクターによる畝立】

■南天 郡上八幡南天生産組合が第2回役員会(理事会)を開催

9月17日、郡上八幡南天生産組合が役員会(本来は理事会であるがコロナ対策のため人数を絞って開催)を開催し、農業普及課も加わって当面の活動について検討した。

役員会の結果、例年開催している市場関係者との交流会と南天まつりは、コロナまん延防止のため2年連続で中止となった。なお、10月末に開催する出荷量予測調査と11月の目揃会は関係者のみで予定どおり行うこととした。

9月時点の生育調査では2年続けての不作が予想されることから、農業普及課では気象データをもとに原因を分析し、対応策としては開花期の分散化が最も有効であり、早生品種の作出を進めるよう提案した。



【コロナ禍での今後の行事を検討】